

Sonica DAC の展開(24)

—総合試聴—

1. はじめに

Sonica DAC 導入以降、ネットワークシステムの整備も進んだことから、オーディオ仲間にご参集いただき、試聴していただきました。

これまでに導入直後に **micro iDSD BL** と合わせて試聴していただいたり、接続テストに協力していただいております、これらの経過は下記に報告しています。

[micro iDSD BL の導入\(13\)](#)

[Sonica DAC の活用\(7\)](#)

ネットワークシステムの整備後は今回が初めてで、ご来臨いただいたのは、メンバーが入れ変わって M 谷氏、M 氏、Mt.T2 氏の 3 氏です。

2. 試聴の経過

1) ネットワークオーディオの現状

まずは、iPad を使用し、Bluetooth、Air Play、外部ストリーミングサービス (Spotify) の現状を確認していただきました。Bluetooth ではモバイル内音源、DMR-UBZ1 録画、ストリーミングサービス (Spotify) の再生を、Air Play ではモバイル内音源の再生を、さらにモバイルを経由しない、Sonica DAC の Spotify Connect による外部ストリーミングサービス (Spotify) の再生を行い、それぞれの音質を確認していただいた結果、Spotify Connect による再生が意外によく、Bluetooth は規格の限界みたいなものを感じるということでしたが、昨今非常に汎用されるようになってきており、以前にご来臨いただいた Y 氏のように Bluetooth でも満足度は高いと主張されるむきもあって、音楽ジャンルや元音源の特性によって、その簡便性から採用されることが理解できます。

再生ルートや使用したアプリなどは、編集者 Profile のページの [Block Diagram Network Audio for Sonica DAC & fidata](#) をご参照願います。

なお、DMR-UBZ1 は最近 BZT-9000 の後継機として導入したもので、ネット接続と HDD の一部を NAS として利用することが可能となったばかりで、詳細は別途一連の DMR-UBZ1 導入レポートで報告いたします。

2) アナログとデジタルの対比再生

下記のような再生ルートで、マスターが同じ音源を聴いていきました。

アナログ LINN LP12/FR64S/ZYX R100-EX/ST-7/iPhono×2
Garrado401/AC300 II/XSD-15/ST-7/iPhono×2

Mt.T2 氏改造 Pioneer PL-25E/自作アーム/SONY XL-MC5/ST-7
/iPhono×2

SACD Marantz SA11-S2→Sonica DAC (ライン入力)

CD PC用 USB-CD ドライブ→fidata→USB ハブ→Sonica DAC(USB 入力)

PC用 USB-CD ドライブ→fidata→スイッチングハブ→

Sonica DAC (LAN 入力)

UBZ1 ドライブ→Sonica DAC (S/PDIF 入力)

デジタルファイル音源

fidata→USB ハブ→Sonica DAC (USB 入力)

fidata→スイッチングハブ→Sonica DAC (LAN 入力)

UBZ1 共有サーバー→スイッチングハブ→Sonica DAC (LAN 入力)

外付けサムソン SSD→Sonica DAC (USB 入力)

まず、最初にテスト用音源としては、ケルンコンサートのアナログのドイツ盤と日本盤、リマスターSACD・CD ハイブリッド盤、オリジナル CD 盤、ハイレゾ化デジタル音源などを使用しました。

まずは、デジタルからということで上記 8 ルートでの再生を行いました、音源のフォーマットと再生機器および再生ルートによって、かなり音が変わることが分かりました。

おおまかな結果としては、fidata 内のハイレゾ化デジタル音源再生の評判がよく、再生経路では LAN 経由より USB 経由の方の声がよいとのことでした。また、外付けサムソン SSD からの再生も若干大人しめになるが、クオリティは fidata に肉薄し、UBZ1 共有サーバーからの再生は PANASONIC のレコーダーの音がするとのことでした。同様に SACD はやはり Marantz のプレイヤーの音がしており、意外に健闘したのは CD 再生で、PC 用 USB-CD ドライブによる再生でも UBZ1 ドライブからの再生も SACD より良いのではないかと思わせるくらいの印象です。特に、今回比較はしませんでした、UBZ1 ドライブからの再生は BZT-9000 ドライブからの CD 再生に比べて数段向上しており、並みの専用 CD プレイヤー程度には肩を並べられる程度になっています。

最後に残したアナログ盤を聴こうとしましたが、LP12 の再生でピッチの揺れがあることで、Mt.T2 氏持参のストロボで調べたところ、回転ムラが分かりました。ここ数か月間ネットワークオーディオに時間を取られ、夏の暑さでベルトの粘着度があがったものと推察されます。

急遽、Garrado401 に替えて聴いていきましたが、アナログはやはりアナログの音で、ケルンコンサートの盤質に関しては、アナログのドイツ盤は骨格のしっかりした重厚な音がするのに反し、日本盤も端正な音で、こちらの方が好みだという声も上がりました。

ケルンコンサートの盤についてはリマスターSACD・CDハイブリッド盤のCD層とオリジナルCD盤とでは、後者の方が良いとの声も上がりましたので、以降の比較の際は主にこちらの方で聴いていきました。

シュタルケルのバッハのチェロ組曲のオリジナルアナログ盤とステレオサウンド社のリマスターシングルレイヤーSACDとCDの組みセット盤とCDからfidataにリップングしたものをUSB経由で聴いてみましたが、傾向としてはケルンコンサートと同様の傾向でした。

総合的な評価では、アナログの優位性は揺らぐことはないものの、アナログ、デジタル双方とも、録音やリマスター、カットティングなどのプロセスによって、印象は変わってくることは否めず、M谷氏はすっきりとして静寂感のあるfidataからの再生は好感を抱かせるとのことでした。

ここで、Garrado401からMt.T2氏をご持参いただいた改造アナログプレイヤーに繋ぎ変えて、氏の汗の結晶の改造結果を確認することにしました。詳細は[Mt.T2氏のブログ](#)を参照願います。

主な改善点は以下のようなことであるとのことでした。

オリジナルプレイヤー：Pioneer PL-25E（下記の改造）

カートリッジ：SONY XL-MC5

トーンアーム：自作品（下記仕様）

シェル：AT-LH15（MITCHAKU口金(FIDELIX)に変更）

ターンテーブルシート：AT-666吸着タイプ

<ターンテーブル改造点>

1) モーターをACシンクロナスモーターからAIWAのDCモーターに変更し、充電池駆動とする。

2) プラッターのダンブ

3) プラッターにかかる荷重を磁石で軽減

4) スピンドルシャフトのスリーブへの接触面積を減らす。

<自作トーンアーム仕様>

1) milon氏製作のピュアストレートアームを参考に自作

2) チタンピボット+チタン軸受にサイド接点を設けた1.1ポイント軸受

2) 内部配線は銀ポーラス線

<その他>

1) アームとスピンドルを自作アルミ板トッププレートに取付け

2) モーターのトッププレートからゴムブッシュ経由のぶら下げマウント

3) 足はトッププレートからステンレスボルト4本+ガタつき調整足によるリジッド化とダンブ処置

4) カートリッジリード線およびカートリッジ取付けネジも仕様変更

5)各種制振動処理



最初に Mt.T2 氏持参のバランス入力のフォノイコを使用しましたが、左右の音量に偏りがあり、使用をやめて、トランス以降は Garrado401 と同じ経路としました。ここで M 氏と Mt.T2 氏持参のアナログ盤と CD のセットで聴いていきましたが、まず、Garrado401 では EMT の中域にエネルギー感のあるカートリッジの個性が現れるのに対し、Mt.T2 氏のシステムは、全般的なクオリティは高く、装着したカートリッジの特性をよく出しているとの評価でした。Mt.T2 氏持参のプレイヤーはジャンク品に手を入れたものでしたが、換骨奪胎したも同然で、まったく新しいプレイヤーと言ってもいいほどです。Garrado401 の方は逆に入手時点ですでに中古品であり、アームもカートリッジも年代ものですので、面白い対比でした。最新録音のアナログ盤と CD との比較で、少しバランスがおかしいアナログ盤がありましたので、CD を聴いてみると同様の傾向であり、もともと CD でよく聴かせるようにバランスを取ったものをそのままアナログにしたものではないかと推測されます。

また、アナログ盤と圧縮音源である外部ストリーミングサービス (Spotify) との極端な対比もジョン・デンバーの例で聴いていただきました。

3) PC 経由の外部ストリーミングサービス

ここでアナログ再生は打ち切って、PC 経由の外部ストリーミングサービスとして、ベルリンフィル DCH を PC→Sonica DAC (USB 入力) で聴いていただきました。今回使用するのは、SSD 仕様の高速 W10 機で、ちょうど LAN リベラメンテが届いたところで、光モデムからルーター、スイッチングハブを経由して PC まですべて LAN リベラメンテに置き変わっています。マーラー1番とシェラザードなどフルオーケストラとワーグナーのワルキューレの演奏会版を聴いていただきましたが、クラシックをあまり聴かれない M 谷氏もベルリンフィルの魅力が分かるとか、スーパーツイーターの位置関係を調整した試聴位置で聴いていただいた Mt.T2 氏もコンサートホールの雰囲気がよくわかるとの感想が述べられました。

4) Spotify Connect による外部ストリーミングサービス (Spotify) のコンテンツの確

認

予定したプログラムのほとんどが終了しましたので、M谷氏とMt.T2氏にiPadを自由に操作していただき、Spotifyのコンテンツを聴いていただきました。女性ボーカルは、懐かしの少女期の美空ひばり、マリア・カラス、コニー・フランシス、ジュリー・ロンドン、ザ・ピーナッツなどなど、男性ボーカルは、エルビス・プレスリー、プラターズ、マイケル・ジャクソン、ルチアーノ・パヴァロッティ、パット・ブーンなどなど、ジャンルと時代を超えたものを聴いていきました。ボーカル以外では、take5のいろいろな演奏を聴いていただきました。

音源のフォーマットには限界があるものの、LANから直接DACに信号が入ってくるSpotify Connectの利点とLANケーブルにLANリベラメンテを奢ったことに、アルコールの効果も加わって、M谷氏からも意外に音が良いとの感想がでました。アルコールの効果により、曲が変わるごとに諸氏の青春時代の思い出や蘊蓄の開陳がつきませんでした。

なお、普段の聴き方としては、検索に使用したり、室内楽やバロック音楽を流し放しにし、BGMとして活用しています。

3. まとめ

近々に導入したばかりでこなしきっていない再生やアナログのトラブルもありましたが、ネットワークオーディオの現状を確認していただき、かつ改めてアナログの魅力とSonica DACとfidataをコアにしたデジタルオーディオの到達点もご確認いただけたものと思います。

同時にMt.T2氏の改造プレイヤーの成果や、いまだハイレゾ領域には到達していないストリーミングサービスのクオリティの現状と将来への期待もお分かりいただいたものと思います。

以上